

大学名 九州大学

表題 九州大学平成29年7月九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団の取組

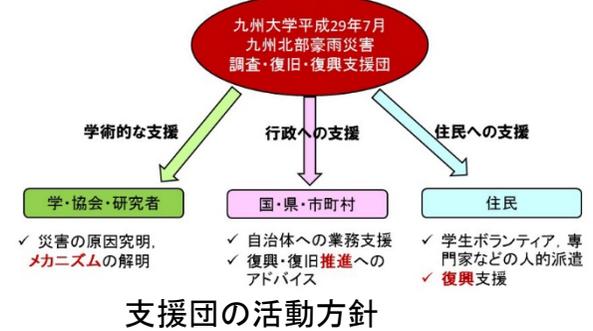
## 特色ある取組

平成29年7月5日、福岡県朝倉市、東峰村で線状降水帯による記録的な豪雨となり、山地部の中小河川沿いで斜面崩壊や土石流が発生し、大量の土砂や流木が河川へ流下したことで洪水となり、平成29年7月九州北部豪雨災害が発生した。これを受けて、九州大学では、学内の9つの部局の教員ら53名からなる「九州大学平成29年7月九州北部豪雨災害調査・復旧・復興支援団」を結成した。この組織は、今回の災害に対して、大学の英知を集集して災害の復旧から復興に至るまでの果たすべき役割を総合的に考え、被災した地域を地元自治体、住民らの協力を得ながら支援することを目的としており、「支援団」という名前が特徴である。この支援団は、「被災された住民を支援すること」、「災害の復旧・復興に携わる行政を支援すること」、そして「学会も含めた学術的調査を支援すること」、の3つの支援を柱として、災害を学術的な対象として取り組むだけではなく、発災直後から復旧・復興に至る過程、さらには将来の減災までの観点から住民・行政と連携しながら災害対応・支援を行った。

## 活動による成果

災害直後は、被災地の被害調査や災害の原因とメカニズムを解明するための現地調査、災害ボランティアのサポート、避難所や仮設住宅への人的支援、地域自治体の復旧対策のアドバイスなどを実施。また、行政への支援として朝倉市、東峰村の復興計画の策定に協力。さらに、復興段階では、将来の災害に備えるためのまちあるきと防災マップの作成。また、災害を次の世代に伝えるための災害伝承館をクラウドファンディングにより設立。このように、学としての専門的な知識を活用し、地域住民や行政機関と協働しながら、復旧から復興までを視野に入れた息の長い支援を実施している。

参考URL: <https://asia.doc.kyushu-u.ac.jp/geotechlabo/>



災害ボランティアの学生派遣



復興計画のための地域会議



将来のための防災マップづくり



災害伝承館